

詩編 16 : 5~11

コロサイの信徒への手紙 3 : 1~4

「よみがえり」

(ハイデルベルク信仰問答 問 45) ※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【前奏】 【招詞】 詩編 34 : 6~9

【祈祷】 天の父なる神さま、御名が崇められますように。

今朝もわたしたちに、新しい朝、新しい命を与えて下さり、恵みの主の日に、一人一人の名前を呼んで、礼拝へと召し集めて下さったことを感謝いたします。

この一回りも、主の恵みに生かされながら、罪深い歩み、御心に背く歩みを繰り返す者であったことをお赦し下さい。しかし、あなたはいつも憐れみ深く、わたしたちを御許に立ち帰らせて下さいます。どうか今、御言葉によって、わたしたちを新しくして下さい。聖霊なる神さまが、語る者、聞く者に豊かに働いて下さい。そして、わたしたちが神さまの御心を悟り、神さまに救われた者として、あなたに喜ばれる歩みが出来るよう導いて下さい。今もここにいます、生きておられる復活の主に、確かに結ばれていることを覚えつつ、恵みをしっかりと見つめて日々を歩んでいけますように、わたしたちの信仰を励まし、強めて下さい。そして、救いを求めている者には、イエスさまを主と告白する信仰をお与え下さい。

また、今日もこの礼拝を覚えながら、身体の弱さを覚えて、また様々な事情によって、ここに集うことのできない、多くの兄弟姉妹を覚えます。どうか、聖霊なる神さまがそれぞれの場にあっても、恵みの御言葉を届けて下さり、この礼拝の豊かな祝福に、共に与らせて下さい。この群れに連なる一人一人が、どうか慰めと、平安と、導きを与えられて、救いの恵みと希望を確かにされて、一日一日を、喜びと感謝の内に歩むことが出来ますように。

神さま、ウクライナ、ロシアの戦争が始まって、一年が経ちました。一日も早く、争いを終わらせて下さい。暴力の中にあって、悲しみや困難にある人々、また孤独を覚え、傷つき、小さくされている人々を、どうか顧みて下さい。この世界に、神さまの御心が成りますように。そのために、どうか為政者を導き、またわたしたち一人一人が、神さまの御言葉に従って、神さまを愛し、隣人を愛する者となることが出来ますよう、導いて下さい。

また、トルコ、シリアで被災し、助けを求めている人々、嘆きの中にある人々に、助けの御手を伸ばして下さい。

どうか、御心を示されているわたしたちが、世界の人々のために、また、身近な家族や友人や、共に生きる隣人のためにも、日々、執り成し、祈り続けることが出来ますように。小さくても、愛の業を始めることが出来ますように、勇気と力を聖霊によってお与え下さい。

今日、礼拝をささげているすべての主の教会が、神さまの愛を、イエスさまの救いの恵みを力強く宣べ伝え、神さまの御国のために仕えていくことが出来ますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

【聖書】詩編 16：5～11、コロサイの信徒への手紙 3：1～4

【説教】「よみがえり」

<キリストの「よみがえり」を信ず>

教会の信仰を言い表している「使徒信条」という信仰箇条があります。そこでは、イエス・キリストが「三日目に死人のうちよりよみがえり」、ということ信じ、告白しています。

イエスさまは、十字架で死んで、葬られました。この地上の歴史の中において、イエスという人物が、確かに死んだ、ということは、大抵の人にとって、まだ信じられる事柄です。

しかし、十字架で死んで葬られたイエスさまが、三日目に死人の中からよみがえった。こうなると、「それは信じられない」という人がたくさんいます。

わたしたちは、「死」については、誰にでも訪れるものとしてよく知っているのですが、「よみがえり」は普通、常識ではあり得ないことだからです。

でも、イエスさまのよみがえりは、それを目撃した弟子たちによって確かに証言され、その証言は多くの人々に信じられ、受け入れられ、そして聖書に記されました。

イエスさまの十字架の死とよみがえりを、教会はそのように、確かな事実として信じ、受け入れているのです。これは、神さまの御業であり、神さまの御力による出来事です。

パウロという、新約聖書の時代に活躍した伝道者がいますが、彼はコリントの信徒への手紙一 15：12～13 でこのように語っています。

「キリストは死者の中から復活した、と宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死者の復活などない、と言っているのはどういうわけですか。死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずで、そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。」

キリストが復活しなかったのなら、救いを宣べ伝えることも無駄。あなたがたの信仰も無駄。そこには救いも何もない、というのです。

これは、反対の言い方をすると、キリストが死者の中から復活なさったからこそ、そこにすべての人に宣べ伝えられるべき、確かな救いがあり、またその救いを信じる人が興されたのです。キリストの復活があったからこそ、今ここに、キリストを信じる者の群れである、教会が存在しているのです。

ですから、ハイデルベルク信仰問答は、イエスさまの「よみがえり」が、あったか、なかったか、ということは問題にしません。イエスさまのよみがえりは、あったのです。

むしろ問うているのは、なぜ、イエスさまは、死者の中からよみがえられたのか。イエスさまがよみがえられたことが、今のわたしたちとどのような関係があるのか。わたしたちに、何の益が、何の恵みがあるのか、ということです。

今日の間 45 のところでは、イエスさまの「よみがえり」によって、わたしたちに与えられる益、つまり恵みを、三つ教えています。第一は、イエスさまがよみがえりによって何を実現して下さったか、ということ。第二のところは、そのことによって今現在、わたしたちが与っている益、恵みは何か、ということ。そして第三は、将来与えられる恵みです。

## < 1. 死に打ち勝たれ、義に与らせる >

さて、まず第一のイエスさまの「よみがえり」の益を見てみましょう。こうあります。「第一に、この方がそのよみがえりによって死に打ち勝たれ、そうしてご自身の死によって、わたしたちのために獲得された義に、わたしたちをあずからせてくださる、ということ。」

まず、そもそも、イエスさまが十字架で死なれたのは、わたしたちが神さまに背き、逆らった罪を、イエスさまが身代わりになって、引き受けて下さったためでした。

わたしたちが犯した罪を担って、代わりにイエスさまが裁かれ、代わりにイエスさまが神さまの怒りを受け、代わりにイエスさまが罪人の神に呪われた死を、死なれたのです。

神さまの裁きによって罪人が受ける死は、ただの肉体の死ではありません。それは、神に呪われた死、と呼ばれているように、神さまから断絶される死。神さまとの関係を、永遠に断ち切られる、まことの絶望の死です。

イエスさまは、すべての人の罪を背負って、この罪人の呪われた死を、わたしたちの代わりに死んで下さった。十字架の死によって、呪いの死を完全に深く死にきられたのです。

そのイエスさまを、天の父なる神さまが、死者の中から復活させられたのです。

父なる神さまは、すべての罪を背負って死なれたイエスさまをよみがえらせることによって、もはや、罪人に対する呪われた死が、イエスさまによって完全に克服されたことを示して下さったのです。

それが、「この方がそのよみがえりによって死に打ち勝たれ」た、ということです。

わたしたちの罪のために、神に呪われた十字架で死なれたイエスさまは、その裁きの死を、呪いの死を、完全に死にきって下さいました。

そして、よみがえらされることによって、イエスさまが、わたしたちが受けるべき呪いの死を、完全に克服して下さった。深い絶望をもたらす死に、勝利して下さった、ということが、明らかにされたのです。

それはつまり、この復活のイエスさまと共にあるなら、わたしたちには、もはや神に呪われた死はない、ということです。わたしたちが、死んで神さまと断絶されることは、もう永遠にない。わたしたちの罪による裁きの死は、もうイエスさまが完全に死んで下さった。もう、罪の償いは終わった。もう、罪は赦された。だから、この呪われた死は、すっかり力を失ったのです。十字架で死なれたイエスさまの「よみがえり」は、そのことをわたしたちに明らかにするのです。

だからわたしたちは、十字架と復活によるイエスさまの救いを信じ、受け取るならば、わたしたちは罪を赦された者として生き、そして、罪を赦された者として、死ぬことが出来るのです。どんな時も、永遠に、神さまとの関係にしっかりと結ばれたままになるのです。

それが、イエスさまのよみがえりの益であり、「ご自身の死によって、わたしたちのために獲得された義に、わたしたちをあずからせてくださる」ということです。

「義」というのは、神さまとの正しい関係のことです。わたしたちは罪によって、その正しい関係を失っていました。神さまから背き、離れ、わたしたちが神さまとの関係を壊したからです。そして罪を裁かれるなら、そのまま神さまから永遠に引き離されるはずでした。

しかし、イエスさまの十字架の死と復活によって、わたしたちはもはや罪を赦され、呪われた死を死ぬことはなく、神さまとの関係を断ち切られる死は克服されました。

だから、十字架と復活のイエスさまに結ばれるなら、わたしたちはこれから、生きるにも、そして死ぬにも、永遠に神さまとの恵みの関係の中に置かれ続けるのです。

父なる神さまは、十字架と復活のイエスさまに結ばれたわたしたちを、罪人ではなく、ご自分の愛する子どもとして、神の子として認め、受け入れて下さいます。そして、ずっと共にいて下さる。永遠に、共にいて下さるのです。

このように、十字架で死なれたイエスさまの「よみがえり」は、罪を赦されたわたしたちに、死からの解放と、神の義、神さまと共に生きる、新しい命の始まりを告げるのです。

## < 2. 新しい命 >

ですから、イエスさまの「よみがえり」の第二の益は、こう語られています。「第二に、その御力によって、わたしたちも今や新しい命に呼び覚まされている、ということ。」

ここで、今日読まれたコロサイの信徒への手紙 3:1 も改めて読みましょう。「さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。」

わたしたちは、イエスさまの十字架の死が、わたしの罪のためだった、わたしの救いのためだった、と信じて受け入れたなら、信仰を告白し、洗礼を受けます。

洗礼は、聖霊によって、わたしたちをイエスさまと一つに結び合わせます。

その時わたしたちは、イエスさまの十字架の死に与って、罪を犯していた古い自分が一緒に死にます。そして同時に、わたしたちは、キリストと共に復活させられる、というのです。イエスさまの復活の命に与って、神の子としての、新しい命を生き始めるのです。

新しい命。でも、新しいといっても、わたしたちは洗礼を受けたからといって、そこから生活が劇的に一変したり、急に素晴らしい人間に変わるものではありません。

新しくなるのは、神さまとの関係です。さっきの第一の答えに、「義にあずかる」とありました。神さまの義にあずかる。神さまとの正しい関係に生きる者となる。それが、「新しい命」です。

この「命」という言葉は、life。つまり、生活のことでもあります。新しい命とは、神さまと共に生きること、神さまの子どもとして生活することです。罪を赦された者として、救いの恵みに感謝し、神さまを礼拝し、賛美する生活をするのです。

わたしたちは洗礼を受け、イエスさまに結ばれたなら、罪に死んで、イエスさまと共に新しくよみがえり、新しい命を生き始めます。これまでは自分を見つめ、自分のために生きてきた人生、自分のために営んでいた生活が、神さまを見つめるようになり、神さまのために生きる人生、神さまのために営む生活へと、新しくされていくのです。

ですから、イエスさまの「よみがえり」の恵みというのは、決してわたしたちの死後の恵みだけの話ではありません。キリスト教の信仰は、死んだ後の救いを目指すものではありません。今ここで、救いの恵みを与えられ、その救いによって生きていくのです。

救いに与ったわたしたちは、今、この肉体で、この地上で、この生活で、イエスさまのよみがえりの命を生き始めるのです。

コロサイの信徒への手紙3:3には、こう書かれていました。「あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。」

罪にあるわたしたちは、すでに十字架のイエスさまと共に死んだのです。そして、わたしたちの命は、キリストと共にある。そして、神の内に隠されている、といます。

確かに、わたしたちがあずかったイエスさまの「よみがえり」の命を、新しい命を、わたしたちはこの肉の目で見て、手に取って、確認することは出来ません。

しかし、新しくされたわたしたちの命は、わたしたちの生活は、この世では見えないけれども、確かに、神さまの内にある。神さまの目には見えておられ、わたしたちはその神さまの内に、包まれ、覆われ、守られているのだ。パウロはそう告げているのです。

だからパウロは、「上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい」というのです。地上のことに、目の前の見えるものに捕らわれないで。見えないけれども、信仰によって、確かに明らかにされている恵みを見つめなさい。神さまのことを見つめなさい、というのです。

これは、地上のことはどうでもよい、無視してよい、という意味ではもちろんありません。むしろわたしたちは、地上のことも、神さまの眼差しを通して見るようにされていくのです。この地上のすべてをお造りになり、愛し、憐れんでおられる神さまが。一人一人に、御子の命を惜しまず与えるほど、心を注いでおられる神さまが。この世界を、今どうご覧になっているか。何を望んでおられるか。どのように働きかけようとして下さっているか。そして、わたしたちが、どう行動することを望んでおられるか。

そのように、わたしたちも神さまと共に生きる者として、神さまと共に地上のことに見つめるようになるならば。日々の中で、人生の中で、何か選ぶ時も、判断する時も、わたしたちは神さまの御心を考えて行うようになるのではないのでしょうか。神さまの愛をこの地上に現すにはどうしたらよいかを基準に、物事を考えるようになるのではないのでしょうか。

…イエスさまの「よみがえり」に与って、わたしたちの「新しい命」が、今ここで始まっているのです。神さまの子どもとして、罪を赦された者として、神さまと共に生きる「新しい生活」が、神さまと共にある永遠の喜びが、今ここで始まっているのです。

「わたしたちも今や新しい命に呼びさまされている」。わたしたちはその恵みを、はっきりと自覚しつつ、上にあるものを求めて歩む者とされたいのです。

### <3. わたしたちのよみがえり>

そして、第三の益。これは、わたしたちの将来のことです。こうあります。「第三に、わたしたちにとって、キリストのよみがえりは、わたしたちの祝福に満ちたよみがえりの、確かな保証である、ということです。」

イエスさまは、神の御子でありますが、わたしたちと同じまことの人となり、そして、確かに死んで葬られました。そのイエスさまが、父なる神さまによって、死者の中からよみがえらされた。

そうであるなら、このイエスさまに結ばれたわたしたちもまた、いつかこの地上で死んだとしても、イエスさまの復活の後に続いて、死者の中からよみがえらせられるのです。

イエスさまのよみがえりは、わたしたちも将来よみがえりに与るといふ、確かな保証である、とされています。

コリントの信徒への手紙一 15：20 には、このような御言葉があります。

「初穂」とは、その年に一番に実った麦の穂のことです。それは、全体を代表するものとされており、初穂が実ったなら、それに続いてほかの麦の穂も次々に実っていきます。

まさに、イエスさまの復活は、わたしたちの「初穂」です。「しかし今や、キリストは死者の中から復活し、眠りに就いた人たちの初穂とされました。」イエスさまの死者の中からの復活は、わたしたちの代表としての、一番初めの実りなのです。そうであるなら、わたしたちもやがて地上の命を終えますが、その初穂であるイエスさまの後に続いて、時が来れば、次々と復活の実りにあずかっていくのです。

イエスさまの「よみがえり」を信じる。それは、同時に、わたしたちの「よみがえり」を信じる、ということもあるのです。

イエスさまの救いは、精神的なものや、思想的なものではありません。わたしたちの体、心、魂、生活、人生、命、この存在のすべてを、まるごと救って下さるものです。

肉の体は、この地上では弱り、衰え、やがて死に、朽ちていきますけれども、イエスさまのよみがえりの命の中で死ぬわたしたちは、終わりの日に、イエスさまに似た、新しい栄光の体に復活させられるのです。

わたしたちは、イエスさまの「よみがえり」によって、神の義にあずかっていますから、もはや呪いの死を死ぬことはありません。わたしたちが死ぬ、地上の肉体の死は、もはや眠りのようなものです。わたしたちは、イエスさまと共にあって生き、イエスさまと共にあって死に、そして終わりの日には、イエスさまと共にあって復活するのです。

ですから、ハイデルベルクは、これを「祝福に満ちたよみがえり」と語ります。

コロサイの信徒への手紙 3：3～4 にはこうありました。「あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。」

「あなたがたの命であるキリストが現れるとき」とは、この世の終わりの日、復活し天に上げられたイエスさまが、再び来られる日のことです。

その日、それまで隠されていたものが、栄光に包まれて現れる。見えなかった恵みが見えるようになり、すべてのものに神さまの救いが完全に明らかにされる。その時、神さまがすべてを完成させて下さるのです。

そしてわたしたちも、キリストと共に栄光に包まれて現れる。

…わたしたちは、いまこの地上にあって、すでに「新しい命」を生き始めている、と言われました。でも、わたしたちは、上のものを求めつつも、やはり、地上のものにも心を引かれ、罪との戦いはまだまだ続き、弱さや、惨めさを覚えながら歩んでいます。

しかしそれでも、日々イエスさまの十字架に赦されつつ、日々イエスさまの復活に新たにされつつ、歩んでいく。神さまの御手に包まれ、守られ、導かれながら、上にあるものを求めて歩んでいく。

そして最後には、神さまがわたしたちをよみがえらせ、救いを完成させて下さり、ご自分の栄光の中に、招き入れて下さるのです。ご自分の恵みを、宝を、栄光を、わたしたちに、神の子としてすべて受け継がせて下さるのです。

これが、イエスさまのよみがえりによって保証された、わたしたちの復活です。

そうであるなら、「よみがえり」は、わたしたちの救いの完成の時であり、隠されていたものが、すべて明らかになる時であり、最高の祝福以外の何ものでもないのです。

このように、第一、第二、第三と、イエスさまの「よみがえり」は、罪人であったわたしたちの死に勝利して「神の義」を与え、今現在のわたしたちを「新しい命」に生かし、そして、将来のわたしたちに「よみがえり」を保証して下さるものです。

イエスさまの「よみがえり」の恵みは、わたしたちの過去、そして現在、そして将来までを、すべてすっぽり、大きく包み込んで下さっています。

このイエスさまの「よみがえり」の命の中で、わたしたちは古い自分を脱ぎ捨て、新しい命をいただき、確かな希望をもって、上を向いて、神さまを見つめて、歩んでいくのです。

**【お祈り】** 天の父なる神さま イエスさまの十字架の死によって、わたしたちは罪に死に、もはや神さまから切り離されることは永遠にないということ。そして、イエスさまの「よみがえり」によって、わたしたちは、神さまと共に生きる、新しい命を与えられ、終わりの日のよみがえり、救いの完成の希望をもって、今を生きることが出来ることを、心から感謝いたします。

罪の贖いを成し遂げて下さった、十字架のイエスさまの「よみがえり」の恵みの内に、わたしたちの過去も、現在も、未来も。そしてこの心も、体も、魂も、生活も、命も、存在すべてが、覆われ、包まれて、守られていることを、感謝いたします。

わたしたちが、新しい命に呼び覚まされていることを、はっきりと覚えつつ、上にあるものに心を留めて、歩んでいくことが出来るようにして下さい。

このお祈りを十字架と復活の主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 3 2 7 「すべての民よ、よろこべ」

【信仰告白】 使徒信条

【献金】

【主の祈り】

【讚美歌】 2 7 「父、子、聖霊の」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン